

# HP Operations Orchestration CP18 (9.x)

Windows およびLinux オペレーティングシステム

00 18 コンテンツパックバージョン(9.x)

## リリースノート

ドキュメントリリース日: 2015 年5 月 (英語版)  
ソフトウェアリリース日: 2015 年5 月 (英語版)



## ご注意

### 保証

HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載は、追加保証を提供するものではありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

### 権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

### 著作権について

© Copyright 2015 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

### 商標について

Adobe™ は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の登録商標です。

Microsoft® およびWindows® は、米国におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。

UNIX® は、The Open Group の登録商標です。

本製品には、'zlib' (汎用圧縮ライブラリ) のインタフェースが含まれています。'zlib': Copyright © 1995-2002 Jean-loup Gailly and Mark Adler.

## ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアバージョンの番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに変更されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。

**<https://softwaresupport.hp.com>**

このサイトを利用するには、HP Passportへの登録とサインインが必要です。HP Passport IDの登録は、次のWebサイトから行なうことができます。 **<https://hpp12.passport.hp.com/hppcf/createuser.do>**

もしくは、「HP ソフトウェアサポート」ページの一番上にある[新規登録]リンクをクリックします。

適切な製品サポートサービスをお申し込みいただいたお客様は、更新版または最新版をご入手いただけます。詳細は、HPの営業担当にお問い合わせください。

## サポート

HPソフトウェアサポートオンラインWebサイトを参照してください。 **<https://softwaresupport.hp.com>**

このサイトでは、HPのお客様窓口のほか、HPソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

HPソフトウェアオンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様のビジネスを管理するのに必要な対話型の技術サポートツールに、素早く効率的にアクセスできます。HPソフトウェアサポートのWebサイトでは、次のようなことができます。

- 関心のあるナレッジドキュメントの検索
- サポートケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HPサポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部のサポートを除き、サポートのご利用には、HP Passportユーザーとしてご登録の上、サインインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport IDを登録するには、次のWebサイトにアクセスしてください。

**<https://hpp12.passport.hp.com/hppcf/createuser.do>**

アクセスレベルの詳細については、次のWebサイトをご覧ください。

**<https://softwaresupport.hp.com/web/softwaresupport/access-levels>**

**HP Software Solutions Now**は、HPSWのソリューションと統合に関するポータルWebサイトです。このサイトでは、お客様のビジネスニーズを満たすHP製品ソリューションを検索したり、HP製品間の統合に関する詳細なリストやITILプロセスのリストを閲覧することができます。このサイトのURLは **<http://h20230.www2.hp.com/sc/solutions/index.jsp>** です。

# 目次

概要 .....	5
CP18 の新機能 .....	5
サポートされているバージョン .....	5
OO Content Pack 18 のドキュメント .....	5
OO Content Pack 18 のインストール .....	6
HP Live Network での OO リリースとドキュメントのダウンロード .....	7
手動での OO Content Pack 18 のインストール .....	8
ローカル Central Server への OO Content Pack 18 のインストール .....	9
Windows .....	9
Linux .....	11
リモート Central Server への OO Content Pack 18 のインストール .....	12
Windows .....	12
Linux .....	12
OO Content Pack 18 のアンインストール .....	14
コンテンツパックフォルダーのバックアップ .....	14
インストールのロールバック .....	14
既知の問題 .....	16
一般的な制限 .....	18
サードパーティの制限 (Windows) .....	18
修正された不具合 .....	20

## 概要

本ドキュメントでは、HP Operations Orchestration Content Packs 18 で行われた変更の概要について説明します。マニュアルやオンラインヘルプに記載されていない重要な情報が含まれています。

これらは英語版と日本語版のリリースです。

HP OO コンテンツパックは累積的です。リポジトリと RAS が更新されます。この更新でオペレーションやフローが削除されることはありません。パッチで行われるのは、特定のコンテンツの場所の追加、修正、変更だけです。

## CP18 の新機能

### サポートされているバージョン

次の統合バージョンのサポートが追加されました。

- VMware vSphere 6.0
- VMware ESXi 6.0
- VMware Virtual Center (vCenter) 6.0
- HP Universal CMDB 10.20

### OO Content Pack 18 のドキュメント

OO Content Pack 18 のドキュメントセットには、次のドキュメントが含まれます。

- *HP Operations Orchestration Integration Support Matrix*
- *VMware Integration Guide*

## 00 Content Pack 18 のインストール

00 Content Pack 18 は、既存の 00 プラットフォームバージョン 9.01.01 またはそれ以降にインストールすることを推奨します。

00 Content Pack 18 は、既存の Content Pack 14 コンテンツインストール上にはインストールできません。プラットフォーム 9.00 と、次の表に記されているパッチを使用してください。

コンテンツ	パッチレベル
00 Content Pack 18	9.00.01
00 Content Pack 18	9.05.0001
00 Content Pack 18	9.07
00 Content Pack 18	9.07.0005
00 Content Pack 18	9.07.0006
00 Content Pack 18	9.07.0007
00 Content Pack 18	9.07.0008
00 Content Pack 18	9.07.0009

コンテンツパックを適用する前に、すべてのコンテンツをチェックインします。

既存の 00 9.00 バージョンの上から 00 Content Pack 18 をインストールした後で、00 9.00 を再インストールした場合は、00 Content Pack 18 も再インストールする必要があります。

# HP Live Network での 00 リリースとドキュメントのダウンロード

HP Live Network にある Operations Orchestration コミュニティページでは、サポートされるリリースの 00 と関連ドキュメントを検索してダウンロードできます。

**注:** コミュニティページを利用するには、HP Passport に登録してサインインする必要があります。

HP Passport ID に登録するには:

次のサイトにアクセスします: <http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

または

HP Passport のログインページの **[New users - please register]** リンクをクリックします。

00 のリリースとドキュメントをダウンロードするには:

1. HPLN サイト: <https://hpln.hp.com/> にアクセスします。HP Live Network の 1 ページ目が開きます。
2. ページ下部の **[2]** をクリックして、2 ページ目に移動します。
3. **[Operations Orchestration]** の下の **[Content]** をクリックします。



## Operations Orchestration

[Announcements](#) | [Forum](#) | [Content](#)

Optimize operational cost and  
Improve service quality by  
enabling end-to-end IT  
Process Automation

4. **[Content Catalog]** タブを選択します。

5. **[Contents]** のリストから **[HP 00 9.x Content]** を選択します。

**注:** 列の上部にある **[Search]** および **[Filter]** ボタンを使用すると、表示されるコンテンツパッケージを少なくすることができます。

6. 大きい **[Download]** ボタンをクリックします。  
ダウンロード可能なファイルのリストが表示されます。
7. **[Download]** をクリックしてすべてのファイルをダウンロードするか、またはダウンロードしたい **jar** および **PDF** ファイルを選択してから **[Download]** をクリックします。

## 手動での 00 Content Pack 18 のインストール

00 Content Pack 18 をインストールするには、Java 6 を使用する必要があります。00 に付属する Java JRE (<00 ホーム>/jre1.6 フォルダ) を使用することをお勧めします。

00 Content Pack 18 を手動でインストールする場合、次のことができます。

- [ローカル Central Server にインストールする](#)
- [リモート Central Server にインストールする](#)

# ローカル Central Server への 00 Content Pack 18 のインストール

## Windows

1. Studio を終了し、Central と RAS が稼働していることを確認します。これには、RSCentral と RSJRAS の各サービスのステータスを確認します。
2. [「HP Live Network での 00 リリースとドキュメントのダウンロード」\(7ページ\)](#) の手順に従って、00 Content Pack 18 のインストーラー **00\_Content\_Pack\_18\_Installer.jar** をダウンロードし、一時ディレクトリにコピーします。
3. **[スタート]** メニューをクリックし、**[ファイル名を指定して実行]** をクリックします。
4. **[ファイル名を指定して実行]** ダイアログボックスで、「cmd」と入力して **[OK]** をクリックします。
5. **JVM** ディレクトリ内の **bin** サブディレクトリが PATH 環境変数に追加されていることを確認します。

コマンドウィンドウで、カレントディレクトリを一時ディレクトリに変更して次のように入力します。

```
java -jar 00_Content_Pack_18_Installer.jar -centralPassword <Central のパスワード> -locale ja
```

6. 00 デプロイメント環境内にあるすべての RAS 上で RAS サービスを再起動します。

### 注:

- Windows 2008 および Windows 2008 R2 サーバーで 00 Content Pack 18 をインストールする際は、管理者権限が必要となります。管理者権限は以下の手順で取得できます。
  - a. **[スタート]** メニューから、**[すべてのプログラム]**、**[アクセサリ]** の順に選択します。
  - b. **[コマンド プロンプト]** を右クリックし、**[管理者として実行]** オプションを選択します。
- Central のユーザー名にデフォルトの admin 以外を使用している場合は、上記手順のステップ 5 のコマンドで、**-centralUsername** パラメーターを使用して次のように入力します。

```
java -jar 00_Content_Pack_18_Installer.jar -centralUsername <デフォルト以外の Central のユーザー名> -centralPassword <Central のパスワード> -locale ja
```

たとえば、次のように入力します。

```
java -jar 00_Content_Pack_18_Installer.jar -centralUsername sysadmin -centralPassword mypassword -locale ja
```

- デフォルトポートの **https://localhost:8443** 以外のポートで 00 Content Pack 18 をインストールする場合は、上記手順のステップ 5 で、**-centralURL** パラメーターを使用して次のように入力します。

```
java -jar 00_Content_Pack_18_Installer.jar - centralURL <デフォルト以外の Central の URL> -  
centralPassword <Central のパスワード> -locale ja
```

たとえば、次のように入力します。

```
java -jar 00_Content_Pack_18_Installer.jar - centralURL https://central_server1:8080  
-centralPassword mypassword -locale ja
```

- オペレーションのバージョン間に競合があっても 00 Content Pack 18 をインストールする場合は、上記手順の**ステップ 5**のコマンドで、**-forceInstall** パラメーターを使用して次のように入力します。

```
java -jar 00_Content_Pack_18_Installer.jar - forceInstall -centralPassword <Central のパスワード> -locale ja
```

たとえば、次のように入力します。

```
java -jar 00_Content_Pack_18_Installer.jar - forceInstall -centralPassword mypassword -locale ja
```

## Linux

1. Central と RAS が稼働していることを確認します。これには、RSCentral と RSJRAS の各サービスのステータスを確認します。
2. 「[HP Live Network](#) での **00 リリースとドキュメントのダウンロード**」(7ページ)の手順に従って、00 Content Pack 18 のインストーラー **00\_Content\_Pack\_18\_Installer.jar** をダウンロードし、一時ディレクトリにコピーします。
3. ターミナルを開きます。
4. **JVM** ディレクトリ内の **bin** サブディレクトリが **PATH** 環境変数に追加されていることを確認します。**cd** コマンドを使用して、カレントディレクトリを一時ディレクトリに変更して次のように入力します。

```
java -jar 00_Content_Pack_18_Installer.jar -centralPassword <Central のパスワード> -home <00 のインストール先フォルダーのパス> -locale ja
```

5. 00 デプロイメント環境内にあるすべての RAS 上で RAS サービスを再起動します。

### 注:

- Central のユーザー名にデフォルトの **admin** 以外を使用している場合は、上記手順のステップ 4 のコマンドで、**-centralUsername** パラメーターを使用して次のように入力します。

```
java -jar 00_Content_Pack_18_Installer.jar -centralUsername <デフォルト以外の Central のユーザー名> -centralPassword <Central のパスワード> -home <00 のインストール先フォルダーのパス> -locale ja
```

たとえば、次のように入力します。

```
java -jar 00_Content_Pack_18_Installer.jar -centralUsername sysadmin -centralPassword mypassword -home /root/00_HOME -locale ja
```

- デフォルトポートの **https://localhost:8443** 以外のポートで 00 Content Pack 18 をインストールする場合は、上記手順のステップ 4 で、**-centralURL** パラメーターを使用して次のように入力します。

```
java -jar 00_Content_Pack_18_Installer.jar -centralURL <デフォルト以外の Central の URL> -centralPassword <Central のパスワード> -home <00 のインストール先フォルダーのパス> -locale ja
```

たとえば、次のように入力します。

```
java -jar 00_Content_Pack_18_Installer.jar -centralURL https://central_server1:8080 -centralPassword mypassword -home /root/00_HOME -locale ja
```

- オペレーションのバージョンの間に競合があっても 00 Content Pack 18 をインストールする場合は、上記手順のステップ 4 のコマンドで、**-forceInstall** パラメーターを使用して次のように入力します。

```
java -jar 00_Content_Pack_18_Installer.jar -forceInstall -centralPassword<Central のパスワード> -home <00 のインストール先フォルダーのパス> -locale ja
```

たとえば、次のように入力します。

```
java -jar 00_Content_Pack_18_Installer.jar -forceInstall -centralPassword mypassword -home /root/00_
HOME -locale ja
```

## リモート Central Server への 00 Content Pack 18 のインストール

ローカルにインストールされた Central が必要です。

### Windows

1. Central と RAS が稼働していることを確認します。
2. 「[HP Live Network での 00 リリースとドキュメントのダウンロード](#)」(7ページ)の手順に従って、00 Content Pack 18 のインストーラー **00\_Content\_Pack\_18\_Installer.jar** をダウンロードし、一時ディレクトリにコピーします。
3. **[スタート]**メニューをクリックし、**[ファイル名を指定して実行]**をクリックします。
4. **[ファイル名を指定して実行]**ダイアログボックスで、「cmd」と入力して**[OK]**をクリックします。
5. **JVM** ディレクトリ内の **bin** サブディレクトリが PATH 環境変数に追加されていることを確認します。コマンドウィンドウで、カレントディレクトリを一時ディレクトリに変更して次のように入力します。

```
java -jar 00_Content_Pack_18_Installer.jar -centralURL <リモート Central の URL> -centralPassword
<Central のパスワード> -locale ja
```

6. リモート 00 デプロイメント環境内にあるすべての RAS 上で RAS サービスを再起動します。
  - Windows 2008 および Windows 2008 R2 サーバーで 00 Content Pack 18 をインストールする際は、管理者権限が必要となります。管理者権限は以下の手順で取得できます。
    - a. **[スタート]**メニューから、**[すべてのプログラム]**、**[アクセサリ]**の順に選択します。
    - b. **[コマンド プロンプト]**を右クリックし、**[管理者として実行]**オプションを選択します。

### Linux

1. Central と RAS が稼働していることを確認します。
2. 「[HP Live Network での 00 リリースとドキュメントのダウンロード](#)」(7ページ)の手順に従って、00 Content Pack 18 のインストーラー **00\_Content\_Pack\_18\_Installer.jar** をダウンロードし、一時ディレクトリにコピーします。
3. **ターミナル**を開きます。
4. **JVM** ディレクトリ内の **bin** サブディレクトリが PATH 環境変数に追加されていることを確認します。**cd** コマンドを使用して、カレントディレクトリを一時ディレクトリに変更して次のように

入力します。

```
java -jar 00_Content_Pack_18_Installer.jar -centralURL <リモート Central の URL> -centralPassword  
<Central のパスワード> -home <00 のインストール先フォルダーのパス> -locale ja
```

5. リモート 00 デプロイメント環境内にあるすべての RAS 上で RAS サービスを再起動します。

# 00 Content Pack 18 のアンインストール

00 には、インストールしたコンテンツパックをアンインストールするオプションが用意されていません。これは設計上の制限であり、Operations Orchestration バージョン 10 では解決されています。

インストールしたコンテンツパックをロールバックする唯一の方法は、コンテンツパックをインストールする前にバックアップを作成しておき、そのバックアップから 00 のフォルダー構造を復元することです。

## コンテンツパックフォルダーのバックアップ

復元ポイントとして使用するバックアップを作成するには、次の手順を実行します。

1. `<OO_INSTALLATION_DIR>\Central\rcrepo` フォルダーをバックアップします。
2. `<OO_INSTALLATION_DIR>\RAS\Java\Default\repository` フォルダーをバックアップします。
3. **RSCentral** および **RSJRAS** サービスを停止します。

## インストールのロールバック

コンテンツパックをインストールした後で、インストールをロールバックする必要がある場合は、次の手順を実行します。

1. コンテンツパックのインストール後に変更または作成したフロー（存在する場合）をリポジトリにエクスポートします。リポジトリのインポートの詳細については、『HP 00 Studio オーサリングガイド』の「リポジトリのインポート」を参照してください。
2. **Central** および **RAS** サービスを停止します。
3. 「[コンテンツパックフォルダーのバックアップ](#)」(14ページ)のステップで作成したバックアップ場所からファイルを復元します。
4. サービスを再起動します。
5. 上記のステップで作成したリポジトリをインポートします。

**注:** リポジトリをインポートした後で、復元したフローのうち、アンインストールしたコンテンツパックのオペレーションを使用して作成されたものが無効と表示されることがあります。これは、コンテンツパックが初期設定の 00 オペレーションを更新して、新しい入力やレスポンスを

追加しているためです。ステップ 3 で Central リポジトリを復元するときに、これらの入力は失われます。

## 既知の問題

CR 番号	タイトル	説明
QCCR8C12237	「割り算」オペレーション	「/ユーティリティオペレーション/数値演算および比較/簡易評価子」の下の「割り算」オペレーションは、0 による除算が発生しても成功し、結果は無限大になります。オペレーションが修正され、除数が0かどうかを確認するようになりました。除数が0の場合、オペレーションは失敗します。
QCCR8C12241	「割り算」オペレーション	「/ユーティリティオペレーション/数値演算および比較/簡易評価子」の下の「割り算」オペレーションを使用して、 、 0.0 を 0.0 で割ると、オペレーションは「BigInteger の 0 除算」メッセージを出して失敗します。
QCCR8C14493	「Base64 デコーダー」オペレーション	「/ユーティリティオペレーション/」の下の「Base64 デコーダー」オペレーションは、characterSet 入力の値が ASCII または shift-JIS で、data 入力の値に無効な非 ASCII 文字列が含まれていても、success を返します。本来ならオペレーションは失敗するはずですが。
QCCR8C14857	00 でフローをスケジュールするオペレーションで説明フィールドが設定されない	「/統合/Hewlett-Packard/Operations Orchestration/スケジュールリング」の下の「フローのスケジュールオペレーション」を使用して説明を持つフローをスケジュールした後、「フロースケジュールの取得」を実行してデータを取得し、「スケジュール詳細情報の取得」を使用すると、説明が空白です。
QCCR8C16166	「オペレーティングシステム検出」で、ReturnResult の末尾に印刷不可能な文字が残される	「オペレーティングシステム検出」オペレーションによって ReturnResult の末尾に印刷不可能な文字が残されます。返された値を一致の種類 RegEx とパターン ".*" で「文字列の比較」オペレーションに渡そうとすると、不一致エラーが発生します。
QCCR8C4741	「テンプレートの再デプロイ」オペレーション	「/統合/Hewlett-Packard/SiteScope/9.x および 10.x および 11.00/」の下の「テンプレートの再デプロイ」オペレーション

CR 番号	タイトル	説明
		ターゲットパスが無効であると、NullPointerException を生成して失敗します。
QCCR8C5150	「アプリケーションバージョンの取得」および「アプリケーションの取得」オペレーション	「/統合/Hewlett-Packard/Continuous Delivery Automation/アプリケーション/」オペレーションの下の「アプリケーションバージョンの取得」オペレーションは 、 <b>applicationId</b> 入力が空のままだと NullPointerException を生成して失敗します。  「/統合/Hewlett-Packard/Continuous Delivery Automation/アプリケーション/」の下の「アプリケーションの取得」オペレーションは 、 filterBy に <b>byApplicationId</b> を割り当てて、 <b>value</b> に不具合説明の値を割り当てると、 <b>NullPointerException</b> を生成して失敗します。
QCCR8C5440	「テストの読み取り」フロー	「ライブラリ/統合/Hewlett-Packard/Application Lifecycle Management/テスト計画」の下の「テストの読み取り」フローは、 <b>useLabels</b> が <b>true</b> に設定されている場合と <b>false</b> に設定されている場合とで異なる結果を返します。
QCCR8C8460	「Ant スクリプト」フロー	「/オペレーション/Ant/Ant スクリプト」の下の「Ant スクリプト」フローの <b>timeout</b> 入力の値は、結果を返す際に考慮されません。
QCCR8C9377	「トポロジの実現されたプラットフォームへのデプロイのトリガー」オペレーション	「/統合/Hewlett-Packard/Continuous Delivery Automation/トポロジ」の下の「トポロジの実現されたプラットフォームへのデプロイのトリガー」オペレーションは 、 <b>deploymentName</b> および <b>deploymentSetId</b> 入力に無効な値が指定された場合でも成功しますが、デプロイメントは CDA 側で NullPointerException により失敗します。
QCCR8C9381	「実現されたトポロジのビルドの検索」オペレーション	「/統合/Hewlett-Packard/Continuous Delivery Automation/トポロジ」の下の「実現されたトポロジのビルドの検索」オペレーションは、 <b>realizedTopologyId</b> 入力に無効な値が指定された場合でも、失敗せずに、結果を返さずに成功します。
QCCR8C9717	Windows のエラーメッセージ	「/オペレーション/ファイルシステム/Windows のみ」フォルダーの下のオペレーションと、「/オペレーション

CR 番号	タイトル	説明
		」および「 <b>経路探索</b> 」オペレーションは、ユーザー名またはパスワード入力が無効な場合に、Windows 2012 と Windows 2008 R2 で異なるエラーメッセージを表示します。
QCCR8C10855	「 <b>ホストからのデータストアの削除</b> 」オペレーション	「/統合/VMware/VMware 仮想インフラストラクチャーおよび vSphere/ホスト/ストレージ」オペレーションの下の「 <b>ホストからのデータストアの削除</b> 」オペレーションは、dataStore に無効な値を指定して実行した場合に、vSphere 5.1 より前とは異なるメッセージを返します。
QCCR8C26159	HTTP クライアントを使用するフローの trustAllRoots 入力の説明を更新する必要がある	HTTP クライアント v1 を使用する OOTB フローの説明では、 <b>trustAllRoots</b> のデフォルトは False になっています。HTTP クライアント v1 オペレーションのデフォルト入力はすべて True になったため、この記述は正しくありません。

## 一般的な制限

CR 番号	タイトル	説明
QCCR8C25082	「ローカルグループの作成」フローで英数字以外の文字を使用すると、フローは成功するが、例外が発生してアカウントは作成されない	「 <b>ローカルグループの作成</b> 」オペレーションは、英数字以外の文字を使用した場合でも正常に完了します。ただし、オペレーションで例外が発生し、アカウントは作成されません。

## サードパーティの制限 (Windows)

CR 番号	タイトル	説明
QCCR8C24692	日本語環境で「Windows イベントをログに記録」オペレーションが失敗する	下記の問題のために、「/オペレーション/オペレーティングシステム/Windows/イベントログ」の下の「 <b>Windows イベントをログに記録</b> 」オペレーションが日本語環境で失敗します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>severity フィールドは、英語の値のみを受</li> </ul>

CR 番号	タイトル	説明
		け入れます。 <ul style="list-style-type: none"><li>オペレーションの設計上、Language という名前の入力はありません。</li></ul>
QCCR8C24653	「サービスの開始モードの変更」オペレーションは、startMode 入力に日本語文字を使用すると失敗する	「/オペレーション/オペレーティングシステム/Windows/サービス」の下の「サービスの開始モードの変更」オペレーションは、startMode 入力に日本語文字を使用すると失敗します。オペレーションは英語文字を使用すれば正しく動作します。

## 修正された不具合

次の項目は、現在のソフトウェアリリースで修正済みです。修正された不具合の参照番号は、ALM 不具合 (QCCR) ID です。

修正された不具合の詳細については、「HP ソフトウェアサポートオンライン」を参照するか、HP サポート担当者まで直接お問い合わせください。

CR 番号	タイトル	説明
QCCR8C24662	「サービスの資格情報の変更」オペレーションは、serviceuser 入力に日本語文字を使用すると失敗する	「/オペレーション/オペレーティングシステム/Windows/サービス」の下の「サービスの資格情報の変更」オペレーションは、 <b>serviceuser</b> 入力に日本語文字を使用した場合でも正しく動作するようになりました。
QCCR8C26487	Enumeration プロパティを設定している場合に、「CI UCMDB の追加」オペレーションを使用すると、NullPointerException がスローされる	「CI UCMDB の追加」オペレーションが正しく動作するようになりました。
QCCR8C26575	「メールメッセージの取得」オペレーションで、Content-Transfer-Encoding ヘッダーが無視される	「/ライブラリ/オペレーション/電子メール/メールの送信/」の下の「メールメッセージの取得」オペレーションの電子メール本文のエンコーディングで、base64 へのハードコードが行われなくなりました。Content-Transfer-Encoding が考慮されます。
QCCR8C27041	PowerShell スクリプト (リモート) および LDAPSearch でのメモリリーク	メモリリークは修正済みです。
QCCR8C27241	プロパティ値に等号 "=" が含まれる場合に、「ライブラリ/統合/Hewlett-Packard/Universal CMDB/」にある「オブジェクトの追加」オペレーションによってプロパティが正しく処理されない	この問題は修正済みです。プロパティ値に等号 "=" が含まれる場合に、「/ライブラリ/統合/Hewlett-Packard/Universal CMDB/」にある「オブジェクトの追加」オペレーションによってプロパティ入力が正しく処理されるようになりました。
QCCR8C27784	「通知」フローの「メール	「/ライブラリ/ユーティリティオペレーショ

CR 番号	タイトル	説明
	の送信」ステップで delimiter 入力を使用不可/グレイ表示になる	の下の「通知」フローのdelimiter入力が有効になりました。
QCCR8C27799	「/ライブラリ/オペレーション /PowerShell/PowerShell スクリプト」が JRAS のアクセス許可を使用する	「/ライブラリ/オペレーション/PowerShell/」の下の「PowerShell スクリプト」オペレーションに、新しい入力 <b>localPSRemoting</b> が追加されました。  この入力を使用して true に設定されている場合、オペレーションはローカル IP アドレス (ローカルホスト/ループバック) でリモート偽装を使用し、同じアドレスで PowerShell リモート処理を使用してスクリプトを実行します。  この入力を使用することで、「PowerShell スクリプト」オペレーションは、ローカルホスト上でさまざまな権限を用いてスクリプトを実行できます。

